

第 3 回 第二次野津田公園整備基本計画懇談会資料

■野津田公園の特性、位置づけ、懇談会での意見等

○野津田公園の特性

- ・市民のレクリエーション活動の中核施設となる総合公園である。
- ・約 40ha の広大な敷地規模を有する公園である。
- ・プロサッカーチームのホームグラウンドとして使用されている施設（陸上競技場）を有している。
- ・里山の自然環境と風景が比較的良好な状態で維持されている。

○上位・関連計画での位置づけ

- ・北部丘陵における「水とみどりの拠点」
- ・町田市スポーツ振興の中心的役割を担う公園
- ・災害時の指定避難広場
- ・自然資源を活かした、北部丘陵レクリエーションエリアの中核施設

○野津田公園第二期整備基本計画策定（1993 年）後の社会動向

- ・健康維持、防災、環境保全に対する意識の高まり
- ・公共施設におけるバリアフリーの制度化
- ・公共施設管理における市民・企業・行政の協働・連携の広がり、指定管理者制度活用の広がり

○第 2 回 野津田公園整備基本計画懇談会での意見

- ・「心地よい」、「気楽に行ける」、「楽しめる」ことを基本に考えたい。
- ・スポーツができて、自然が楽しめる公園が目標である。
- ・自然の場所はそのままでよいという意見と、都市公園として整備された自然が求められるという意見。
- ・集まってきた人にどんなサービスが提供できるかを検討すべきである。
- ・多世代で楽しめる公園、障がい者も楽しめる公園にしたい。
- ・生活文化の場としての野津田公園のあり方を考えたい。
- ・利用面を考えると交通の利便性を高めたい。
- ・上の原には駐車場が必要という意見がある。
- ・上の原の駐車場化や駐車場の有料化には反対意見がある

◎総合公園とは

総合公園は、都市住民全般の休養、観賞、徒歩、遊戯、運動等の総合的な利用に供することを目的として設置する都市公園です。



■項目別の検討

A：自然環境の保全・活用

- ・自然環境の現状
- ・上位・関連計画での方針等
- ・自然環境から見た野津田公園の特性、課題
- ・整備目標（案）
- ・整備方針（案）

B：スポーツ活動

- ・スポーツ施設、スポーツ活動の現状
- ・町田市スポーツ振興計画での 2018 年の達成目標
- ・スポーツ振興から見た野津田公園の特性、課題
- ・整備目標（案）
- ・整備方針（案）

C：観光・レクリエーション

- ・観光・レクリエーション資源の分布状況
- ・上位・関連計画での方針等
- ・観光・レクリエーションから見た野津田公園の特性、課題
- ・整備目標（案）
- ・整備方針（案）

D：防災・避難

- ・過去の主な災害と大規模地震の被害想定
- ・上位・関連計画での方針等
- ・防災・避難から見た野津田公園の特性と課題
- ・整備目標（案）
- ・整備方針（案）

E：交通・アクセス

- ・野津田公園とつながる周辺地域の交通体系
- ・周辺道路の交通量や公園内駐車場の利用状況
- ・交通から見た野津田公園の特性、課題
- ・整備目標（案）
- ・整備方針（案）

F：マネジメント（第 4 回で協議）

- ・管理運営の現状
- ・指定管理者の活動状況、意向等
- ・地域住民の活動状況
- ・マネジメントから見た野津田公園の特性、課題
- ・マネジメントの目標（案）
- ・マネジメント方針（案）

全体的な基本方針

A：自然環境の保全・活用

(1) 自然環境の現状

- ・樹林地、草地、畑地等で構成される里山の自然環境が見られる。
- ・一部サッカー場として整備されている。
- ・1990年の自然環境調査では、タヌキなどの哺乳類やオオムラサキ、ゲンジボタルなどの生息が確認されている。
- ・調査中の鳥類調査においても45種の野鳥が確認されている。
- ・上の原一帯には、古代から近世にかけての遺跡が分布する。

(2) 上位・関連計画での方針等

- ・北部丘陵の里山環境を形成する重要なみどりの資源を保全する。
- ・大規模な公園を、多摩丘陵を支える骨格的な「水とみどりの拠点」として整備し、自然とのふれあい活動の場などとして活用する。

(3) 自然環境から見た野津田公園の特性・課題

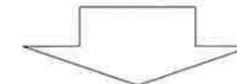
- ・豊かな自然が広がる北部丘陵の「水とみどりの拠点」に位置付けられている。
- ・適度な地形の変化と多様性のある里山の自然環境が維持されている。
- ・サッカー場が整備されている。

(4) 懇談会での意見

- ・自然を残すのであれば、手を加えないで今のままでよい。
- ・上の原は昔畑だった。散策を楽しみ、歴史を感じられるようにしたい。
- ・自然のままでは魅力に乏しい。公園である以上、利用者は整備された自然を求めてくるのではないか。
- ・里山を地域の人が支え守っていくしくみが必要
- ・スポーツと自然の両立はできるのではないか。

(5) 整備目標 (案)

都市公園としての役割に沿った形で、里山の自然環境を有効に保全・活用し、自然や農とのふれあい活動が楽しめる公園づくりを目指す。

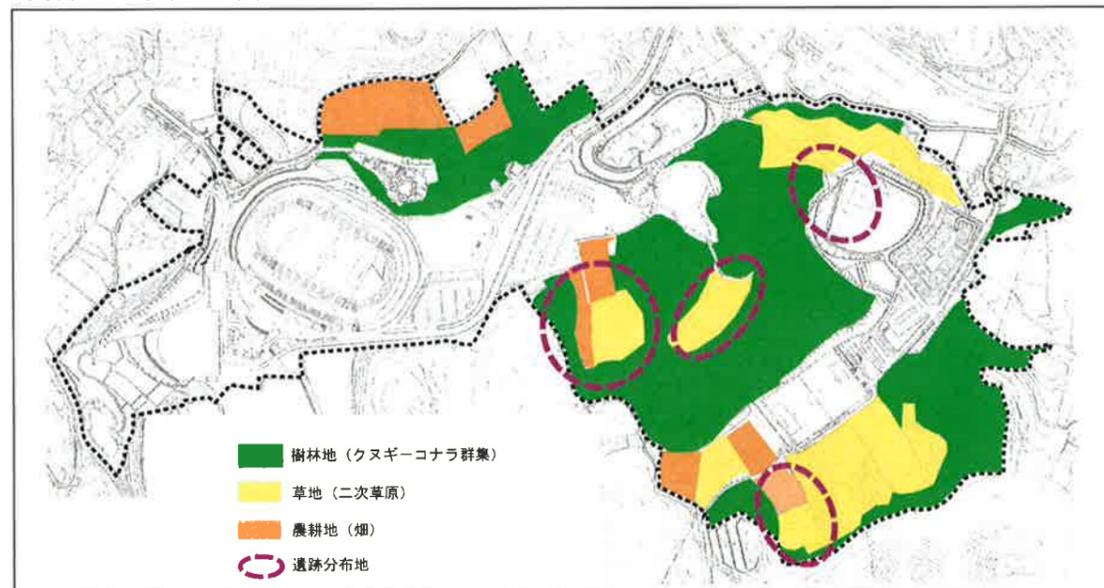


(6) 整備方針 (案)

- ① 公園内の自然環境について、目標植生を設定し、多様性のある里山の自然環境を守り・育てる。
- ② 動物についても目標種を設定し、北部丘陵の生き物ネットワーク形成の拠点にふさわしい自然環境を守り・育てる。
- ③ 里山の自然や農とのふれあいを楽しみ、様々な体験活動ができる場として有効に利用する。
- ④ 北部丘陵や野津田の豊かな自然、文化を紹介する情報発信の機能を持たせる。

■参考資料

資料-1 野津田公園の自然環境と歴史資源



資料-2 自然環境調査で確認された動植物種 (H2年)

- H2年**
- 動物
 - ・哺乳類-キツネ、タヌキ、イタチ等5種
 - ・両性爬虫類-ヘビ、カエル類7種
 - ・鳥類-ウグイス、メジロ、モズ等
 - ・昆虫類-オオムラサキ、ゲンジボタル等225種
 - 植物
 - ・タマノカンアオイ、エビネ、キンラン等の貴重種が観察されている。

- H25年**
- 2013年の鳥類調査で観察された種 (在来種)
 - ・オオタカ、ノスリ、フクロウ、イカル、メジロ、ヒヨドリ、アオゲラ、エナガ、ホオジロ、モズ、ウソ、ウグイス、アオジ、シロハラ
 - (外来種)
 - ・ガビチョウ 等45種

資料-3 町田市の生態系ネットワークと野津田公園の位置



B：スポーツ活動

(1) スポーツ施設・スポーツ活動の状況

○スポーツ施設

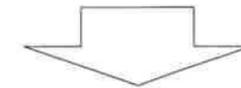
- ・市内には、陸上競技場、体育館、野球場、運動広場、テニスコート、屋内プール、グラウンドの 26 施設が整備されている。
- ・野球、テニス、水泳などの特定のスポーツ活動に対応する施設が多くを占めている。

○スポーツ活動への参加

- ・ホームタウンチームの活動や、市民のスポーツ活動が盛んに行われており、体育施設の利用者数も年々増加している。
- ・「運動やスポーツを行う機会を持てた」人の割合は 38.1% である。
- ・ホームタウンチームのホームゲーム 1 試合の平均観客数は、ASV ペスカドーラ町田 1,282 人、FC 町田ゼルビア 3,627 人、キャノンイーグルス約 2,500 人である。

(5) 整備目標 (案)

競技スポーツから健康スポーツまでの幅広い活動が楽しめる場と、
仕組みを備えた公園づくりを目指す。



(2) 町田市スポーツ振興計画での 2018 年の達成目標

- ① 運動やスポーツの機会を持てた市民の割合 38.1% (2010 年度) → 目標 60%
- ② 地域スポーツクラブの数 4 クラブ (2012 年度) → 目標 11 クラブ
- ③ ホームタウンチームのホームゲームでの年間観客数 122,780 人 (2012 年度) → 目標 170,000 人

(6) 整備方針 (案)

- ① ホームタウンチームの活動を中心とする様々なスポーツイベントに対応する空間を整備する。
- ② 地域の子どもやクラブチームなどが様々なスポーツ活動を楽しむ空間を整理する。
- ③ 個人やグループが様々な健康スポーツを楽しむ空間を整備する。
- ④ 健康維持の基本である、「歩き」が楽しめる計画とする。
- ⑤ 健常者だけでなく、高齢者や障がい者も楽しむための施設整備にも十分配慮する。
- ⑥ 利用者の健康増進につながる情報や専門家の指導などが受けられる機能を備える。

(3) スポーツ振興から見た野津田公園の特性、課題

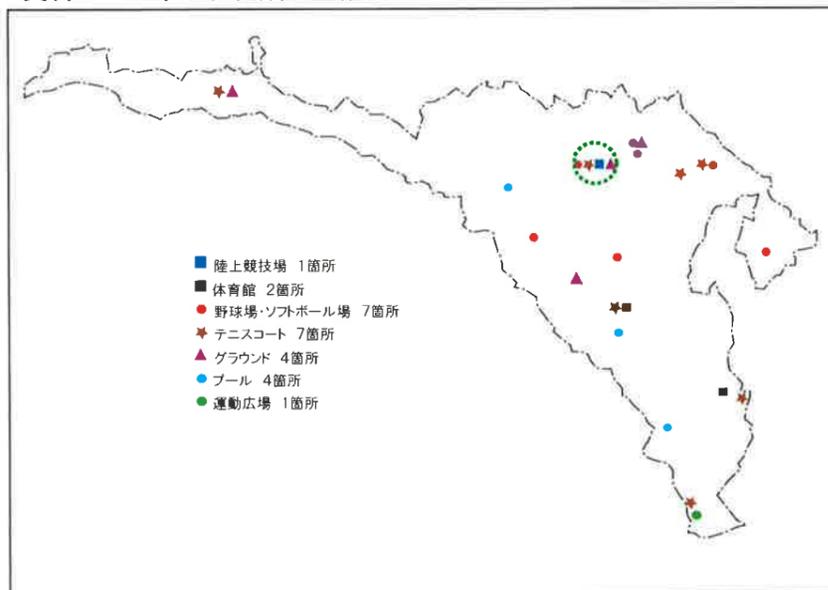
- ・ホームチームの活動拠点となる施設を持つ。
- ・現状は競技型スポーツ施設が主体であり、健康スポーツ活動に対応する施設は十分には整っていない。

(4) 懇談会での意見

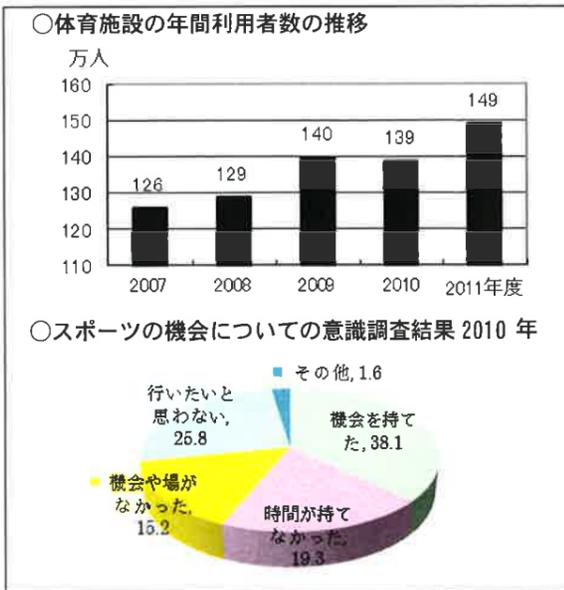
- ・気軽に楽しみながら体が鍛えられるような公園が良いと思う。
- ・個人やサークルでスポーツ活動が楽しめるスペースがほしい。
- ・高齢者や障がい者も利用でき、多世代が楽しめる場が必要。

■参考資料

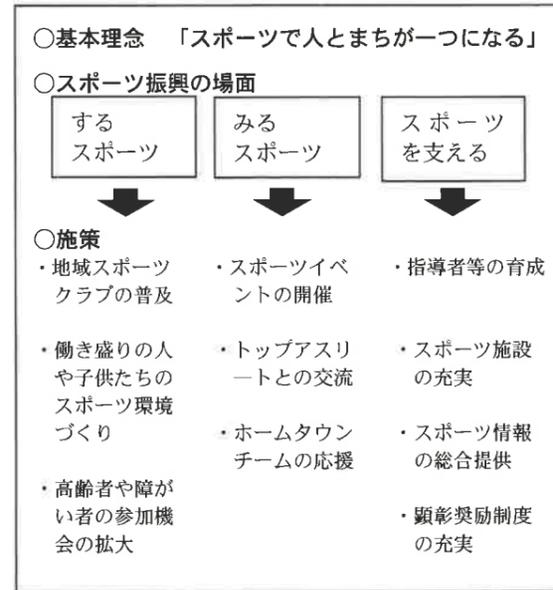
資料-1 スポーツ施設の整備状況



資料-2 スポーツ活動の状況



資料-3 スポーツ振興の基本的考え方と施策



資料-4 スポーツ振興で想定する 3 つの形態

- ① 個別のスポーツグループ
個人やグループが個別にスポーツを楽しむ。
- ② 地域型スポーツコミュニティ
地域の子どもからお年寄りまでが、地域密着型でスポーツを楽しむ。
- ③ 都市・テーマ型スポーツコミュニティ
ホームタウンチームなどスポーツに関するテーマを中心として、スポーツを「する・みる・支える」の 3 つの場面で楽しむ。
(町田市スポーツ振興計画 2009 年 12 月)

C：観光・レクリエーション

(1) 観光レクリエーション資源

- ・北部丘陵一帯には、豊かな自然環境や歴史文化を基盤とする魅力あるレクリエーション資源・施設が多く分布している。
- ・よこやま道・尾根緑道をはじめとして、これらの資源・施設を巡る複数のウォーキングコースが設定されている。
- ・野津田公園は、ホームタウンチームの根拠地として都市型観光の拠点となりつつある。
- ・野津田公園は、自然とのふれあいの場となる里山の自然環境を持つ。

(2) 上位・関連計画での方針等

- 緑の基本計画（野津田・小野路）
 - ・歴史的遺産や田園風景などの自然環境が保全された「緑、歴史文化、農とふれあう拠点」を目指す。
- 都市計画マスタープラン
 - ・地域の資源を活かした観光を通じて、広域から来訪者を呼び込む。

(3) 観光・レクリエーションから見た野津田公園の特性・課題

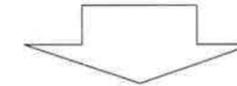
- ・北部丘陵レクリエーションエリア内の資源をつなぐネットワーク軸の結節点に位置する。
- ・都市型・自然ふれあい型のレクリエーションに対応できる資源を持つ
- ・公園へのアクセス、公園内の移動についての検討が必要である。

(4) 懇談会での意見

- ・お金を払っても行きたくなるような公園づくりを考えたい。
- ・飲食を楽しむ施設などの生活文化の場も大切である。
- ・バラ園としての魅力は十分でない。

(5) 整備目標（案）

多様なレクリエーション活動が楽しめ、交流が広がる公園づくりを目指す。

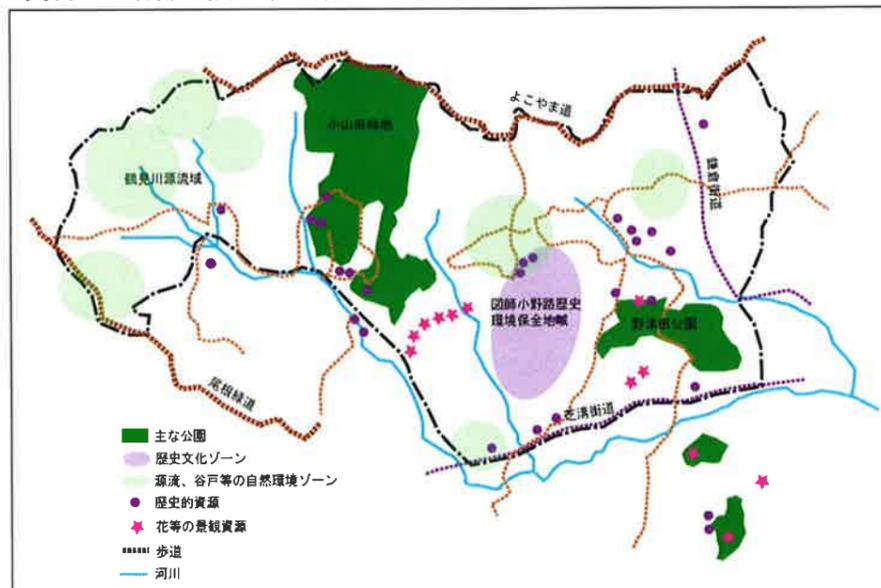


(6) 整備方針（案）

- ① 各種のスポーツイベントなどが展開される、都市型観光・レクリエーションの拠点空間を計画する。
- ② 里山の環境を活かした、散策、自然とのふれあい、バートウォッチング、農体験などが楽しめる場とする。
- ③ 利用者の集い、飲食・語らい・交流などのレクリエーション活動が楽しめる場を整備する。
- ④ 里山の風景を背景に、四季の花（レンゲ・ナノハナ・サクラ、秋のコスモスなど）が楽しめる花の名所づくりを行う。
- ⑤ バラ園のより効果的な活用方法を検討し、魅力ある空間として計画する。

■参考資料

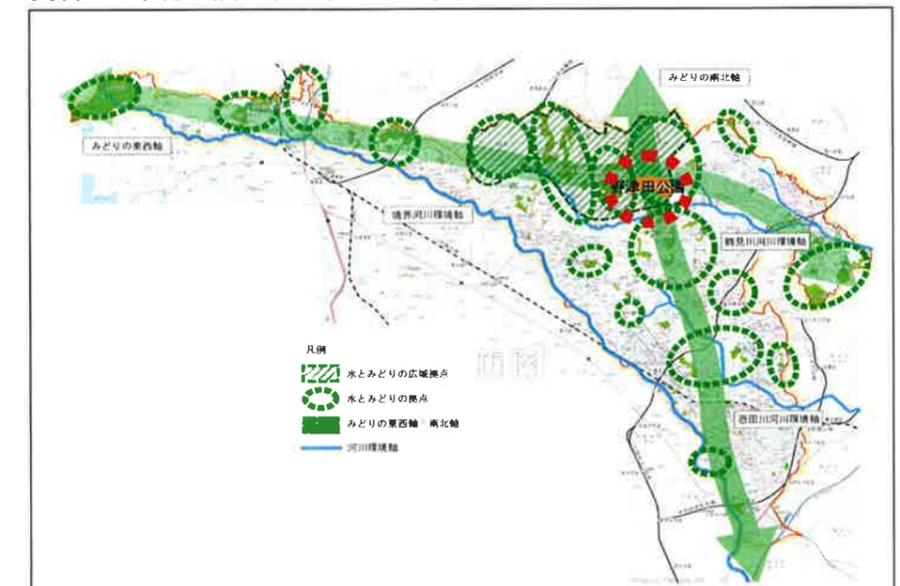
資料-1 北部丘陵一帯の観光・レクリエーション資源の分布



資料-2 主な資源の概要

- 公園緑地
都立小山田緑地、野津田公園、薬師池公園、芹ヶ谷公園、民権の森公園、谷戸池公園、尾根緑道、小野路公園 等
- 歴史資源
鎌倉街道、芝溝街道、小野路宿通り、函師小野路歴史環境保全地域、村野常右衛門生家、薬師池公園 等
- 花
町田ばたん園、薬師池公園、野津田公園、町田えびね苑、町田ダリア園、町田かたかごの森 等
- 自然、景観資源
鶴見川源流の泉、平谷戸、野中谷戸、西山中谷戸、田中谷戸、東谷戸、奈良ばい谷戸 等
- ふれあい
町田リス園 等
- 河川
鶴見川、小野路川 等

資料-3 北部丘陵の水とみどりのネットワーク



D : 防災・避難

(1) 過去の主な災害と大規模地震の被害想定

○過去の主な災害

- ・1937年 関東大震災 : 死傷者 53 名、建物の全半壊 355 戸
- ・2011年 東日本大震災 : 死傷者 13 名、建物の全半壊なし
- ・1966年 台風 4 号 : 床上床下浸水 1912 棟、崖崩れ 35 箇所
- ・2008年 集中豪雨 : 床上床下浸水 77 棟、崖崩れ 22 箇所

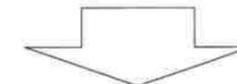
○大規模地震の被害想定 (冬 18 時)

想定される地震	死者 (人)	負傷者 (人)	建物全半壊 (棟)	建物焼失 (棟)	避難人口 (人)	避難生活者 (人)
多摩直下型	229	3,200	16,452	3,443	92,758	60,293

出典：町田市地域防災計画

(4) 整備目標 (案)

大規模災害発生時の住民避難や、救援活動の拠点機能を備えた公園づくりを目指す。



(2) 上位・関連計画での方針等

○都市計画マスタープラン

- ・被災時の活動の場となるオープンスペースの確保
- ・ヘリコプター臨時離着陸場の維持・確保
- ・避難場所の整備 (災害時に様々な活動ができる公園づくり)

○地域防災計画の防災ビジョン

- ・迅速な消防・救助・救援活動の実施
- ・避難施設の開設と避難者の受け入れ



(5) 整備方針 (案)

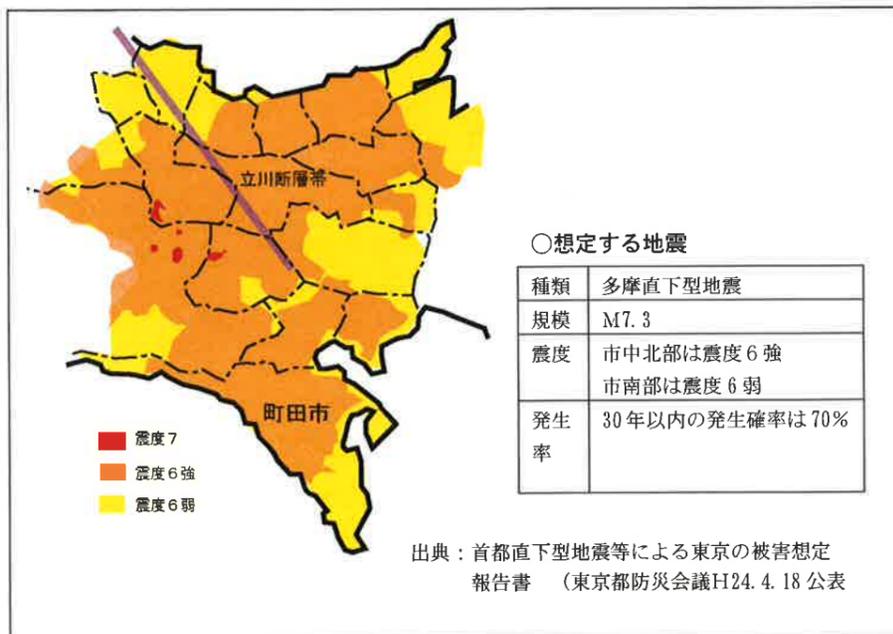
- ① 災害時における避難者の受け入れ地を確保する。
- ② 災害時の救援部隊の活動スペースを確保する。
- ③ 一時的避難生活やヘリの緊急離着陸場などにも活用できるスペースを確保する。
- ④ 周辺道路と公園を結ぶ、安全性の高い避難路を整備する。
- ⑤ 災害時のスムーズな人や物資の移動を考慮した動線を計画する。
- ⑥ 公園外周部の既存樹林を、緩衝機能を有する樹林として保全する。

(3) 防災から見た野津田公園の特性と懇談会での意見

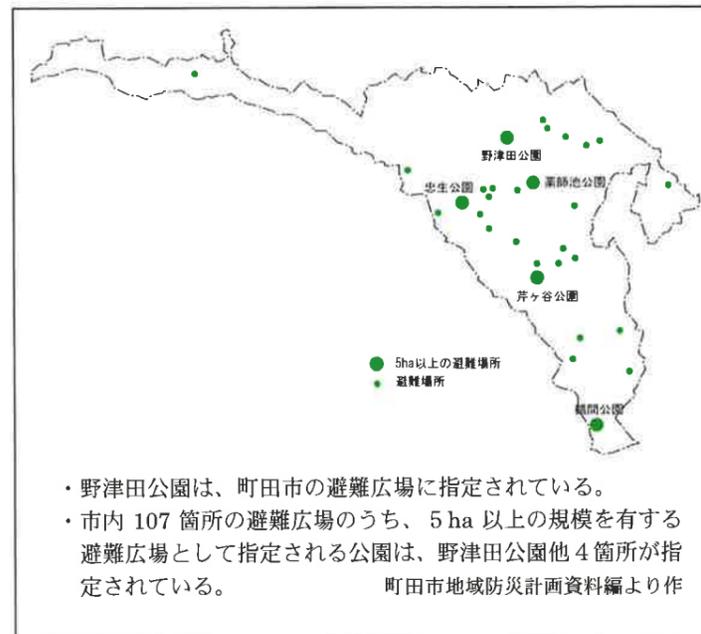
- ・約 40ha の広大な空間と、小丘・樹林地に囲まれた環境を持つ。
- ・東京都の第一次及び第三次緊急輸送道路に近接している。
- ・町田市の避難広場に指定されている。
- ・災害時の多目的な活用が可能な空地として挙げられている。
- ・野津田公園の広域的な避難エリアの範囲はどのようなものか。

■参考資料

資料-1 大規模地震の概要と震度分布



資料-2 町田市の施設・避難広場指定地 (1ha 以上)



資料-3 町田市の災害時活用可能な空地一覧 (有効面積 1 ha 以上)

施設名	有効面積 (㎡)	救出救助の活動拠点	ヘリ緊急離着陸場	物資の集積輸送拠点	ライフライン復旧拠点	がれき置き場	応急仮設住宅建設用地
町田中央公園	12,000	○	○	○			
市民病院	10,000	○					
町田市民球場	20,800		○				○
木曾山崎公園	15,000						○
西田スポーツ広場	15,000						○
鶴間第二スポーツ広場	12,000					○	
成瀬センター	15,000				○	○	
成瀬鞍掛スポーツ広場	14,000						○
総合体育館	19,000			○			
成瀬クリーンセンター	15,000				○	○	
野津田公園	41,000	●	●	●	●	●	●
金井スポーツ広場	15,000					○	○
鶴川中央公園	15,200					○	○
鶴見川クリーンセンター	35,000	○	○		○	○	
三輪緑山スポーツ広場	15,000						○

出典：町田市地域防災計画

E : 交通・アクセス

(1) 交通体系、交通手段、駐車場利用等の状況

- ・ 3～5 km圏内に4鉄道路線の18の駅が立地しており、各方面からの利用が考えられる。
- ・ 公園への交通手段は、自家用車・シャトルバス・路線バス・自転車・徒歩などであり、イベント時は自家用車の利用が約7割を占める。
- ・ ホームゲーム開催時の来場者は、約7割が町田市民である。
- ・ 路線バス利用者の約8割は、野津田車庫で降車している。
- ・ 公園周辺には、鎌倉街道など4つの道路が走っており、この道路から東・中央・西入口に取り付け道路が整備されている。
- ・ 公園内の駐車場における1日の合計駐車台数は、平日 883 台、休日 1,635 台である。

(駐車場利用実態調査報告書 H23年11月)

(2) 交通から見た野津田公園の特性、課題

- ・ 交通立地上自家用車の割合が高いが、シャトルバスの利用も多いことから、公共交通の有効活用策の検討が必要である。
- ・ 芝溝街道からのアクセスの改善が課題である。芝溝街道は災害時の最優先で対応すべき緊急輸送道路に指定されており、こうした点からの考慮も必要である。
- ・ 公園内の動線整備と移動手段の検討が必要である。

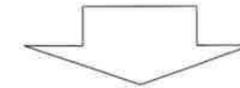
(3) 懇談会での意見

- ・ 上の原には駐車場が必要という意見がある。
- ・ 上の原の駐車場整備や駐車場の有料化には反対意見がある。
- ・ バス利用者は裏道を通って公園へ来ている状況である。
- ・ 遠くからの利用者を見ると、交通の利便性を高めたい。
- ・ 芝溝街道からのアクセスが必要であり、有料化は近年の流れである。

(5) 整備目標 (案)

公共交通の有効活用などにより、自家用車利用に偏らず、交通の利便性が確保された公園づくりを目指す。

高齢者や障がい者の利用にも配慮したバリアフリー対応の公園づくりを目指す。

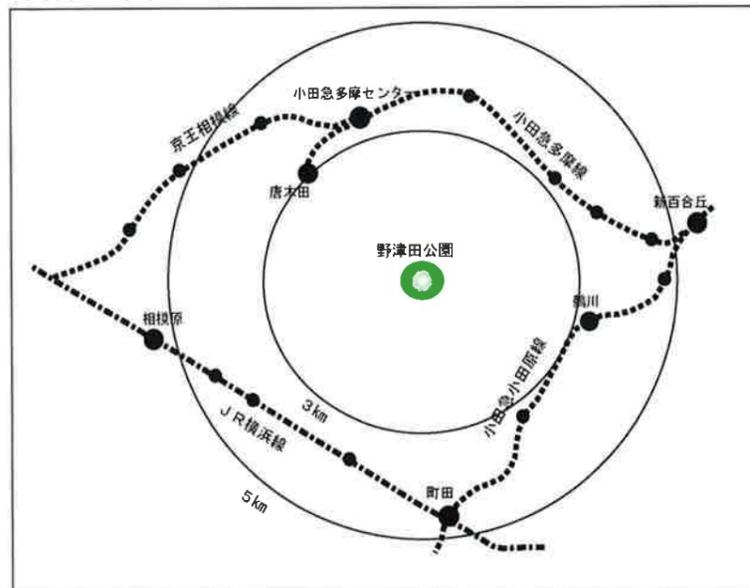


(6) 整備方針 (案)

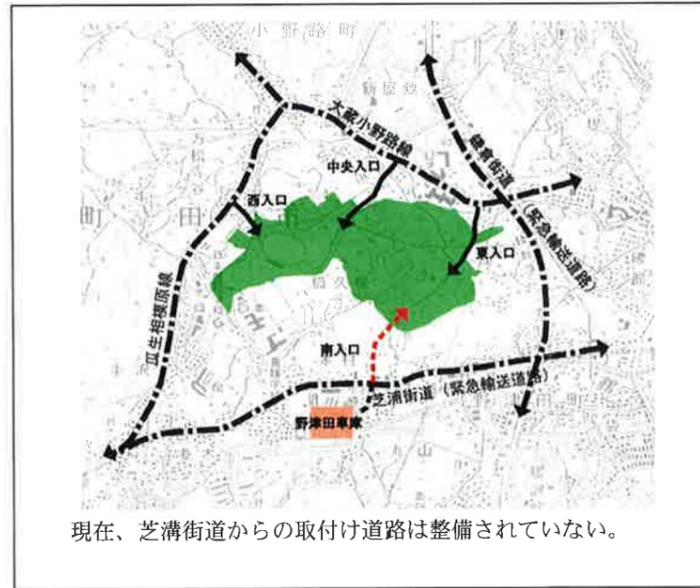
- ① 入口の顔としてのゲートを整備し、駐車スペースを確保する。
- ② 芝溝街道からのアクセスルートを整備し、駐車スペースを確保する。
- ③ 公園内を周回できるルートを確認するとともに、園内バスなどの移動手段を整える。
- ④ シャトルバスの運行拡充やパーク・アンド・バスライドの導入など、自家用車利用の抑制につながる方策について検討する。

参考資料

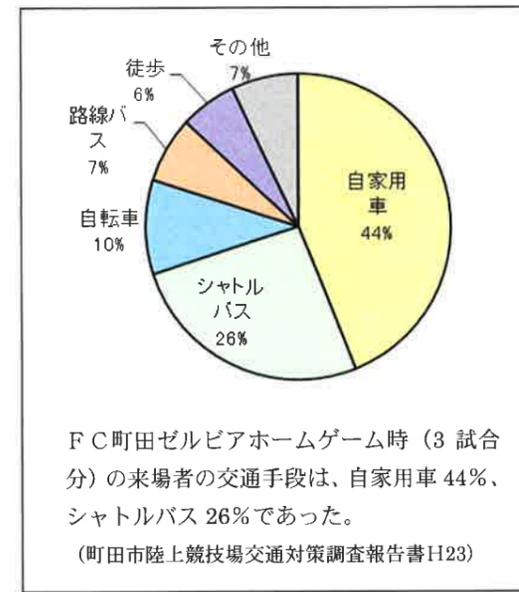
資料-1 野津田公園と周辺鉄道路駅との位置関係



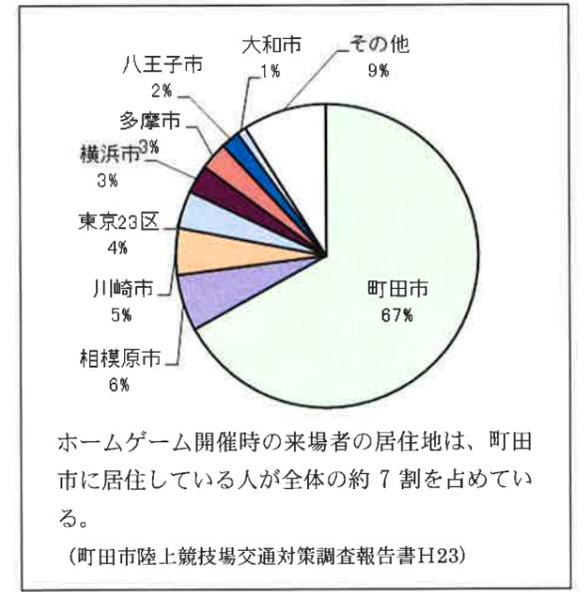
資料-2 野津田公園周辺の道路体系と公園への取付け道路



資料-3 イベント時の利用交通手段



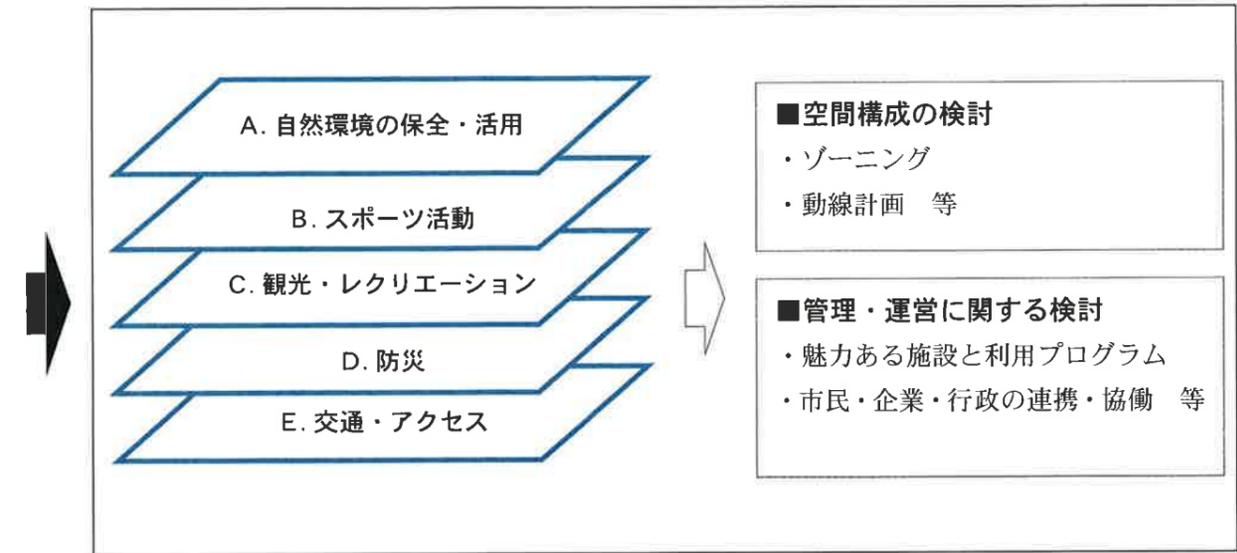
資料-4 来場者の居住地の割合



全体的な基本方針（案）

基本方針	対応する項目別の検討内容
里山の自然・文化とのふれあい、体験活動が楽しめる公園	A. 自然環境の保全・活用
「する・みる・支える」のスポーツ活動が楽しめる公園	B. スポーツ活動
広域からの利用にも対応できる、多様なレクリエーション活動の拠点となる公園	C. 観光・レクリエーション
災害時の避難や救援部隊の活動拠点となる公園	D. 防災
自家用車の利用に頼らない公共交通の有効活用と利便性が確保された公園	E. 交通・アクセス
高齢者や障がい者の利用にも配慮したバリアフリー対応の公園	

第4回懇談会検討事項



<参考>

■野津田公園の整備計画の変遷

1981年12月 野津田公園基本構想

□基本方針

- ・ 現況の自然地形、植生を十分に活かす
- ・ 幅広い年齢層の多様なスポーツ・レクリエーション需要に応える
- ・ 競技スポーツ大会のできる施設を計画する
- ・ 市民が日常生活の中で気軽に利用できる公園とする
- ・ 運動施設を集中的に配置し、他の部分は自然を残した静的空間とする
- ・ 静的空間は、周辺の歴史的環境を活かした文化的スペースと、季節感あふれる静かな空間とする

1988年3月 野津田公園基本計画

□基本構想からの主な見直し点

- ・ 公園入口動線の変更
- ・ 駐車場の計画と広場の集約
- ・ プールを徒渉池に変更
- ・ 調整池の見直し 等

□基本方針

- ・ 市の「健康スポーツタウン構想」の拠点として整備する
- ・ 良好な自然環境を十分生かした施設配置を行う
- ・ 郷土風景及び文化遺産の保全活用を図る
- ・ 投資効果が最大限に期待できる施設配置を行う

1993年 野津田公園第2期基本計画

□基本構想からの見直し点

- ・ 雑木林の保全や郷土の文化の活用
- ・ 導入施設の見直し
- ・ 進入路や利用動線の見直し
- ・ 管理運営体制の見直し 等

□基本方針

- ・ 本格的な競技スポーツから健康スポーツまで楽しめる公園
- ・ 市民の総合的なコミュニケーションの場となる公園
- ・ ふるさとの自然と文化を守り育てる公園
- ・ 町田市のシンボルとなる公園

